

自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻
／大谷 博俊

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

平成23年度より科学研究費補助事業の助成を受け、平成25年度まで現在の研究を継続する予定である。平成23年度の研究結果に基づき、平成24年度は、障害のある生徒の保護者の理解と支援、特にキャリア教育との関連に視点をあて、講演会、ワークショップを計画している。また特別支援学校教員への聞き取り調査についても行う予定である。

2. 点検・評価

平成23年度から受けている科学研究費補助事業の助成により、平成25年度まで特別支援学校における進路指導困難生徒に関する研究を推進している。平成24年度は、特別支援学校高等部の進路指導における教員の保護者に対する認識に視点をあて、研究を進めてきた。特別支援学校高等部教員を対象とした質問紙による調査、及び教員と保護者を対象とした個別面接による調査を行った。その結果、企業就労だけでなく、福祉サービス利用者においても、卒業後に不応が現れるケースのあることが看取できた。これらの結果から、進路指導における追指導(フォローアップ)をテーマとした研究の必要性を感じた。そこで、次年度は、現在の研究テーマを進めると共に、先述のテーマに関わって、科学研究費申請のために準備を進める予定である。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

近年は現職教員の占める割合が減ってきている。しかし、特別支援教育に対する教員の関心は、比較的高いように思われる。そこで、鳴門教育大学特別支援教育専攻に関する情報を学校教員へより直接的に伝えるために、少人数の研究会や勉強会において、個別に説明する機会を設けてはどうかと考えている。

2. 点検・評価

9月20日は徳島文理大学へ訪問し、鳴門教育大学大学院、及び特別支援教育専攻についての説明を行い、進学希望者の有無を確認すると共に、卒業後の進路状況等に関する情報交換を行った。また、近畿圏の障害児教育研究会の月例会で、9月15日、2月23日の2回にわたり、鳴門教育大学大学院の説明と入学の勧誘を試みた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学生・院生の特別支援教育に関する課題意識を高め、理解を深めるために特別支援教育に関わる教育実践のトピックを取り上げていきたい。

2. 点検・評価

障害児教育概説Ⅱで、新たな試みとして、模擬授業に対する授業批評を演習として取り入れた。グループによる討議を中心に、授業の成果と課題を検討した上で、ポスター発表の形式により交流できるように工夫した。また、グループ協議による成果物(ポスター)、及び板書をデジタル機器で保存し、DVDに収めて学生に持ち帰らせ、個人の省察を深めるようにレポート課題を設定した。次年度は、今回の試みを基に、特別支援教育に関わる学生の実践力を高めるために、さらに授業改善を行う予定である。
教員採用試験の対策として、学部生に1名あたり20～30分の個人面接を行った。また大学院生に対しては、就学相談を行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

進路指導困難生徒に関する研究を進めていきたいと考えている。平成24年度は、保護者の理解・支援、特にキャリア教育に視点をあてて、進める予定である。7～8月に保護者理解・支援のための講演会とワークショップを開催する準備を始めている。

2. 点検・評価

日本特殊教育学会誌「特殊教育学研究」第50巻1号に、特別支援教育における進路指導に関する学術論文が掲載された。特別支援学校高等部に在籍する知的障害のある生徒のための教科書を編集、執筆した。東洋館出版から「くらしに役立つ家庭」として、5月に刊行される予定である。
「知的障害教育における進路指導に関する実践的課題の論究」を執筆した。本論文は、兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科に学位論文審査の申請中である。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

基礎・臨床系教育部の構成員として部会議に出席すると共に、各種委員として大学の運営に貢献したいと考えている。

2. 点検・評価

基礎臨床系教育部教員会議、附属学校運営委員会、教職実践演習実行委員会等では、積極的に意見を述べた。大学機関別認証評価ワーキングでは、大学機関別認証評価自己評価書「基準5 教育内容及び方法」の「観点5-1-①～③」及び「観点5-4-①～③」を執筆した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

鳴門教育大学附属特別支援学校とは、高等部の研究に関して、助言を行う予定である。また共同研究である「レインボーサポートプロジェクト」についても継続していきたいと考えている。地域の特別支援学校との連携については、平成24年度徳島県特別支援教育学会での助言を行う予定である。

2. 点検・評価

平成24年度鳴門教育大学附属特別支援学校研究発表会高等部分科会で助言を行った。また、それに関わる2グループの公開授業について、助言を行った。徳島県発達障害者支援体制整備検討委員会委員として、徳島県発達障害者支援体制検討委員会に出席し、平成24年度の発達障害者施策について意見を述べた。徳島県保健福祉部福祉子ども局障害福祉課から依頼を受け、徳島県障害者介護給付費等不服審査会委員、及び徳島県障害児通所給付費等不服審査会委員を務めた。独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構から依頼を受け、「雇用管理サポート事業」雇用管理サポーターを務めた。徳島県教育委員会特別支援教育課から依頼を受け、すだちサポート会議の委員長を務め、とくしま特別支援学校技能検定の開催に尽力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科の「マル合」教員資格を取得した。鳴門教育大学は4大学で構成する連合大学院の構成大学であり、教員には本学の学生・院生への教育だけでなく、兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科の院生に対する教育についても積極的に関わる姿勢が求められており、同研究科の教員取得についても推奨されている。今年度試みた兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科の教員資格申請は、連合大学院の構成大学である鳴門教育大学の教員として、本学の運営方針に応えたものである。